2024（令和６）年10月17日

2024（令和６）年度関西保育福祉専門学校

第１回学校関係者評価委員会報告

本校の学校関係者評価委員会設置要綱に基づき設置した学校関係者評価委員会において、第１回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、概要をお知らせいたします。

１　開催期日　　令和６年10月３日（木）15:00～17:00

２　開催場所　　関西保育福祉専門学校　2F校長室

３　出席者

■　学校関係者評価委員

NO	委　員　名	所　属　等
1	高山由香里委員	社会福祉法人 樫の木会 開明かしの木こども園　園長
2	田渕勝彦　委員	社会福祉法人 みおつくし福祉会 救護施設　淀川寮　施設長
3	丸山和幸　委員	社会福祉法人 三田谷治療教育院 芦屋翠ホーム　施設長
4	水嶋正稔　委員	兵庫県立尼崎高等学校　校長
5	齊藤恵美　委員	保育科１年　保証人
6	波多野靖明委員	社会福祉法人あひる福祉会 あひる保育園　副園長
7	松本陽介　委員	学校法人阪急学園　副理事長 認定こども園 いるか幼稚園　園長

■　学校教職員

NO	名　　前	所　属　等
1	濱名　篤	学校法人濱名山手学院理事長　関西国際大学学長
2	本田　あけみ	校長　関西国際大学社会学部　教授
3	黒川　丈朗	事務局長
4	榎本　優人	学校関係者評価委員会担当
5	藤田　千波	保育科学科長　就職委員長
6	藤井　和子	教務委員長
7	吉田　しのぶ	入試委員長　学生指導委員長

４　概　要

（１）理事長挨拶

（２）校長挨拶

（３）委員長選出

委員長に丸山和幸　委員が選出された。

（４）報告

各報告について、委員より以下の通りの意見や質問があった。

報告事項１　「2023（令和５）年度関西保育福祉専門学校自己評価報告書」について

・退学率 8.7%の内訳について　どのような理由が多いのか。

(回答) 精神的なものが多く、入学前からそのような事象を抱える学生が増加傾向である。

報告事項２　　学校の現状について

・私立幼稚園の内定者が１名と少なく、私立幼稚園団体としてもっと魅力を発信し続けねばならないと危機感を感じている。

（５）協議

報告事項１　2024(令和６)年度の取り組みについて

以下の通り、委員より意見及び指摘事項があった。

① 2024 年度関西保育福祉専門学校　事業計画

・夜間主コースでは様々な授業スタイルを取り入れることで、受験生の幅が広がり将来保育業界を担う人たちが増えることにも繋がる素敵な取り組みだと思う。

・就職フェアに参加させていただく中で、今学生さん達が何に不安を感じているのか、また保育教諭という仕事のやりがいや楽しさなどを学生さんたちに直接伝えられる素敵な場だと思っている。

・夜間主コースの実施など、社会人募集にも力を注がれており、告知が功を奏せば、今後は希望者も増えてくるのではと感じる。

・「災害に対する備え」という点において、備蓄が必要である。

・地域の連携やインターンシップの機会が増えると実務経験を積めるような支援が進んで良いと思う。

②保育科の取り組み

・多様化のなか、どう一人ひとりを尊重しながら大切に育てていくか、園では考えながら進めている。学生の自信のなさが多くの場面での表現力の乏しさに繋がっている傾向になってきていると感じている。一人ひとりの表現を認め、肯定的に伝えるなかで自信力を高めていけるよう、今後も情報交換をさせてもらい連携を取りながら、学生を大切に育てていければと思っている。

・実習を通して、命の尊さ・育ちの尊さ・喜びなどを実感してもらえるように伝えられたらと思っている。

・一人ひとりの学生さんの特性を配慮しながらの、実習先の決定・実習先への連絡や、卒業生による体験談を聞く授業など、学生一人ひとりを大切にされているのが伝わる。

・実習開始前に、学校と施設との懇談会のような場を設けられるのはどうか。あくまで形式ば

ったものでなく、フランクな形で少しでも学生にとって良い実習となるためにこちらも尽力できれば幸いである。
・エピソード記録を用いるなど、多様化する学生に対して職員側の意識改革も必要ではないか。
・実習が多く現場での実践力がつき卒業後も役立つので良い。

③授業アンケート調査結果
・連携をとりながら、卒業生が働いている福祉の現場に出向いたり、行事や地域のイベントに参加するなど、地域との繋がりを体験するなかで、授業と社会の繋がりを感じられるような機会を作っていければと考えている。
・本アンケートを活用し続けることで、より魅力的でわかりやすい授業に改善されていくことを望む。

④学生生活実態アンケート
・考えていた以上にアルバイトに費やす時間が多いことに驚いた。
・福祉関係のアルバイトを選択してもらえるような策を講じなければと感じる。
・本を読もうと思える環境作りや、本の魅力をどう伝えていったらよいのかということは現場での課題となっている。
・悩みやストレスに対してのサポート体制がより強化されると良い。

(その他)
第 2 回の会議は、2025 年の 2 月 20 日木曜日に予定しており、2024 年度学校自己評価報告書に対する評価を依頼予定。